

《論文》

箱庭療法の砂色に関する基礎的研究

大宮 秀 淑

要 約

本研究の目的は、箱庭療法で使用される砂の色が異なる箱庭作品に違いが認められるか否かを検討することである。対象は大学生55名(男子:22名, 女子:33名)である。対象者は2種類の砂(白砂・茶砂)を用いて各砂色につき1回ずつ箱庭作品を制作した。制作終了後、質問紙による回答を求め作品の印象を訊ねた。結果として、白砂による作品は未熟な印象を与え作品に対する満足度が低いことが明らかとなった。白砂という素材が持つ様々かつ曖昧なイメージを刺激する働きによる影響が認められた。イメージ内容には性差が認められ、男子学生は否定的イメージを持つことが示された。一方、茶砂に関しては作品に対する満足感が高く、性差が認められるとともに茶砂が持つ大地の役割や母性とのつながりが示唆された。制作回数の効果については、1回目よりも2回目の作品の方が成熟度に関して深まりが感じられる結果となった。他の砂色に関する比較検討が今後の課題である。

キーワード：箱庭療法, 砂色, 制作回数, 性差

I 問題と目的

「砂は大地である」とは著名なユング派分析家であるJoel,Ryce-Menuhinの言葉である(山中, 2003)。代表的な心理療法の1つである箱庭療法において必要不可欠である砂に関する研究は数少ない。本研究では箱庭療法の砂に関して、特に砂色の違いによる箱庭作品の差異を明確化することを目的とする。砂色が異なることによる箱庭作品の特徴が明らかにされることを通して、心理臨床の現場における砂色の選択に示唆を与えることが期待される。

1 箱庭療法の概略

箱庭療法はイギリスの小児科医Lowenfeld,M.が1929年に考案したThe World Technique(世界技法)に始まり(Lowenfeld,1931)、スイスのユング派分析家のKalff, D. M. によって治療技法として確立された。日本にはユング派の河合隼雄により1965年に紹介され、日本人の文化や心性との相

性の良さから、現在まで多くの治療実践が積み重ねられている。箱庭療法で用いる道具は、内法が57cm×72cmの長方形で深さ7cmの木箱と、その中に入れる砂、そして多種多様なミニチュア玩具である。箱の内側は青く塗ってあり、底まで砂を掘ると水の感じを出すことができる。治療者は患者/クライアントに「この砂箱とおもちゃを使って、何か自由に作ってみませんか」といった教示を与える。患者/クライアントは、砂の上に家や木を置いたり、砂で山を作ったり砂を掘って川や湖を作るなど、三次元空間の造形活動を通して自由なイメージ表現を行なう。

2 箱庭療法に関する研究

箱庭療法に関する研究は事例研究と基礎的研究に大別される。各研究の特徴について木村(1993)は「日本において初期は比較的筋のよく読める分かりやすい事例研究が多かったが、最近では徐々に深い言語化困難な世界からのメッセージとしての箱庭表現の考察へと進みつつある。一方、箱庭療法に関する基礎的な研究(すなわち、事例研究を除く様々な研究的アプローチ)は、最近徐々に増えてきているがまだ数少ない」と述べている。理由として、基礎的研究の結果が実際の臨床場面に応用しにくいことを挙げている。不破(2018)においては主に理論的なアプローチから箱庭療法の治癒的要因について詳細な検討が加えられている。その中で「初期から砂が治癒的要因として重要視されてきたことがわかる」と述べ、砂が存在することの意味を明確にしているが、同時に箱庭制作の中での展開が起きる力動とプロセスの検討が必要であることを指摘している。一方、岡田(1981)は基礎的研究の必要性について「箱庭療法の作品がどのようなものであるかを明確にするために、1回限りの作品に焦点づけて分析することもまた大切である。箱庭の作品は個人的な面が強く出てくるが、個性が強調されればされる程その基に基礎的、典型的な作品を踏まえておく必要がある。各個人の作品を何らかの基準に照らすことができれば、治療者にとっても心強いであろうし、治療を進める力にもなるだろう」と述べている。

(1) 箱庭療法に関する基礎的研究

木村(1973)はセラピスト側の要因について、セラピストのグルーピングの試みとして研究を行なっている。その結果、作品の動きやまとまり、成熟度などセラピストによって重視する点が一定程度存在することが明らかとなった。岡田ら(1975)は高校生の箱庭に関する実験的研究の中で、制作者のタイプとの関連に焦点を合わせて研究を行なった。非言語的な手段による自己表現の仕方がタイプによりどのような特徴があり、箱庭表現の中に制作者のタイプがどのような形で表れうるのかを明らかにした。結果、制作者のタイプと数量的な関係から、内向型の方が外向型より玩具を多く使い、動物や植物、乗り物などを多く用い人間の使用が少ないことを示した。岡田(1981)は年齢差を中心とした基礎的研究を行なった結果、平均所要時間は12分から23分程度となり、小学6年生が一番短く高校生が一番長いことや、初発時間は様々な群間で差は見られず30秒程で制作を始めることが示された。性差に関しては年齢が低いほど使用玩具やテーマに差が認められたことを明らかにしている。小野(1983)は中学生を対象として、主題の問題や他の数量的側面について実験的研究を行

なった。結果、全体として過去の研究結果と一致しない部分が少なくなかったと述べ、箱庭作品の個人差の大きさが影響したと説明している。また、各研究で使用されているミニチュアが異なるので、比較が難しい点もあることを指摘した。さらに、研究者の要因（性別・年齢・臨床家としての経験）が働いていた可能性についても言及し問題点を提起している。

（2）箱庭療法の砂に関する基礎的研究

The World Techniqueに関連したBowyer（1959）の研究では、The World Techniqueの診断的有用性という視点から砂に触れることはロ-ルシャッハテストのM反応と関係が深いこと、実験群は砂に触れることが少ないことなどを明らかにしている。塩田（1994）はSD法によるイメージ分析を行い「統合性の因子」「生命力の因子」「伸縮性の因子」の3因子が抽出されたことから「箱庭療法における砂の役割は、生命力を与え、成長（伸縮）を促し一つの統合されたものへと形作るための内的な基盤となるところにあるのではないかと考えられる」と記述している。山口（1997）は砂と母性の関係について質問紙を使った研究を行っている。結果、「母性準備性と砂は関連があり、これは砂自体に母性と重なるイメージがあること、砂を触るという行動に母性的な育児行動と同じ面があるからであると思われる」と述べている。野副（1997）は箱庭療法過程全体を対象とした研究を行い、その中で「心理療法の過程には、一般に治療の節目とも言えるポイントがあり、これを治療の“山”と呼ぶことがある」として『箱庭表現の“山”』を、箱庭表現の展開点と定義し、これを中心に見方を検討したい」と述べ、その展開点のひとつに砂の使用を挙げている。城倉（2010）は、大学生を対象とした実験において砂に触れる意味を明らかにする中で「イメージの展開が生じて来るのではないかと述べ「箱と一体である砂に、イメージを引き出す要因があるのではないかと結論付けている。久米（2013）においては、箱庭療法における砂には「感覚を通して身体に直接的に働きかけてくる面と、質感そのものや可塑性を生かした造形などからイメージを豊かに喚起する面とがあり、それぞれにプロセスを促進する効果があると考えられる」と指摘され、砂とイメージの関連の深さについて言及がなされている。石原（2015）は非臨床の大学生・大学院生を対象とした調査研究から『海』や『砂浜』、あるいは『砂漠』というイメージが多くなるのは、砂箱の内側の青色と砂の存在が、イメージの中へ取り込まれるためであると考えられる」と述べている。

（3）箱庭療法の砂に関する事例研究

箱庭療法における砂に関しては様々な意味や働きがあるとされているが、岡田（1993）は3点に焦点付けている。第一は「退行を促すこと」である。砂の感触の良さが退行を促すと考えられ、温かさや心地よさは母性性に関係してくると述べている。第二は「大地として」という点である。事例から得た知見から箱庭における砂は土と同じように考えられ、箱庭で与えられている砂が大地の役割を果たすことがあると主張している。第三に「感覚に働きかける」を挙げ、退行作用に加えて、砂が触角を通して、動物的・本能的な人間本来がもっていて忘れがちになっている感覚機能に働きかけていると解説している。第一の意味に関して木村（1985）は「多くの場合このような砂との戯れは心の防衛を解き、人をリラックスさせる。『治療的に意味のある適度な心理的退行』である」と

述べている。木村 (1993) は「砂は箱庭技法のもっとも特徴的な要素であり、それ自体が治療的な素材であると言える」とも述べている。母性性に関する研究では、田熊 (1997) は「対人緊張の強いクライアントにとって砂が母親的関わりをしてくれており」と述べ、佐藤 (1997) は「砂より母性を得た」と記述し、砂自体が持つ母性性という意味を明らかにしている。第二の意味について秋田 (1991) は「砂-大地-母性」という観点から砂を捉えており「作品が出来上がるまでの砂 (-大地-母性) との触れ合いは、母性、身体性との自分なりの関わり合い方の模索のように思える」と述べている。前川 (1998) は「砂 (大地) と直面するようになり」、「自己の内部の情動を大事にするようになっていた」と解説している。母性性や母親的関わりはKalfffの「母子一体性」とのつながりを示唆するものである。第三の意味に関して橋本 (1995) は「箱庭の『砂』がクライアントの内界を耕す」とした上で、「この箱庭でクライアントは初めて砂を触り掘った。(中略) クライアントを捕らえる母性のネガティブな面が表されたと思われた」と述べている。川戸 (1997) は2つの事例から「砂のもつ不思議さに触れながら砂の中から『たましい』を掘り出していくのだと思います」と解説している。石田ら (1995) は「箱庭のパーツを手にとって、匂いを嗅いで棚に戻す。砂を触り『冷たい』とすぐ手を放す。手についた砂が気になるらしく匂いを嗅ぎ、それ以上砂を触らない」という態度が「埋めるのが好き」と話すようになる変化が現れた事例を取り上げている。岡田 (2002) の中で高野は集団不適応を主訴として来談した中学1年男児の事例を紹介し「洗った砂と洗わない砂の2個のケースに詰めて左上隅に置く」と記載した上で、考察の中で「砂の乾湿」がテーマとして扱われたことを述べている。高野 (2009) は20代半ばの自己視線恐怖のクライアントの事例を紹介している。「砂をすべて取り除くという作品が、これから後、5回出てきました」と記述されており、その後7年かけて計131回のセッションを経て社会人として義務を果たすようになったと記載されている。

3 箱庭療法における砂色に関する研究

砂に関する研究の中で、何色の砂を用いているのかあるいは砂の色を選択する際にどのような点に留意したかなどについて明確に述べられている研究は数少ない。木村 (1993) によると、自身は「箱内には細かくふるった砂を深さの3分の2程度の量に入れておく」ようにしているが、Lowenfeld, M. (1969) は「茶色の荒い砂」「細かい砂」「白い砂」の3種類を用いており、河合 (1972) によれば、Kalfff, D. Mは「茶色」「白」の2種類を使用し、日本においては「多くが茶色や灰色の1種類の砂を使っているが治療者によって様々である」のが現状と考えられる。山中ら (2003) においても「砂箱は低い机に置かれ、(中略) 砂で満たす。一つは乾いた砂の箱、もう一つは湿った砂の箱を、どちらでも選べるように用意しておく」と記載されているが、砂の色に関する記述は認められない。先のLowenfeld, M.は, Phantasy Materialの観点から砂色について述べている。Lowenfeld, M.自身「初期の頃に土を表現する素材として使っていたものは、白い砂、薄茶色の砂、焦げ茶の砂である。これらの砂は、好奇心をそそるものであり、同時にファンタジーを表現するためのものとして使っていた。例えば、茶色は大地を表すのに用いられたり、白は雪、茶と白を混ぜたものは、海辺などを表現

するのに使われたりした」と述べている。砂の働きとして「トンネルを掘ったり、陸地や、海の風景を隠したり、消したりするといった、ファンタジーを表現する働きを持っている」と述べ「乾いた砂は感触のよいものであり」、「触れれば触れるほど少しずつ湿り気を帯びてくるようになる」など砂に関する記述が散見される。丹治（1988）の事例研究においては「最初に患児が『自然がいい（中略）白い砂の方にしよう』とテーマと砂箱を選ぶ」と記述され、砂色の特徴が作品に生かされた例が示されている。前述の石田らは「私どもの施設の箱庭の砂は、ある海岸から採取したさらさらした粒子の細かい、乾いた感じの明るい褐色の砂である。それがもし湿った黒っぽい砂であれば、おのずから感じられる感覚も異なり、箱庭作成に少なからず影響が出るかもしれないのである」と解説している。平松（1996）においては、砂色に関する明確な記述は認められないものの、クライアントによる「眺めていると、砂が中近東の砂漠の山のように見えたので、黒馬を置いた」との説明から、色、粒子の細かさなど砂の見た目によって作品が影響を受けることが指摘されている。梅村（2012）は「砂地でないことを示すためにわざわざ緑のカーペットを半端に敷いて」と述べ、砂の色のイメージの強さを示唆している。砂の色に着目した山崎（2015）の基礎的研究では砂の色が持つ箱庭制作への影響について検討が加えられており、黒いっぽい砂に関してはその色から「大地のようなしっかりとした土台」という印象を受け、白い砂に関しては砂の明るさによって、砂そのものから受ける影響が大きかったことなどが指摘されているが、制作回数や性差による差異については検討がなされていない。

4 本研究の目的

以上、箱庭療法の概略および箱庭療法に関する様々な研究について解説した。箱庭療法に関する研究は事例研究が主であり、基礎的研究は数少ないことを明らかにしてきた。基礎的研究の中でも多くは箱庭アイテムに関する数量的研究であり、砂の色に着目した研究は皆無に等しいと考えられる。本研究においては箱庭療法で用いられる砂色が異なることによって、完成した作品に違いが見られるか否かを検討することを通して、心理臨床家が患者／クライアントに箱庭療法を導入する際の砂色の選択に示唆を与えることが目的である。

II 方法

1 手続き

砂箱は内側を青色に塗った内法57cm×72cm×7cmの箱を2つ使用した。箱の中には、それぞれ深さ3分の2程度に白砂と茶砂を乾いた状態で入れた。玩具は大別すると植物、動物、人間、乗り物、建造物の5種類と柵やビー玉などその他に含まれるものの計6種類を用意した。実験条件の統制を目的に玩具数は同一とした。時計とカメラを用意し、制作後に作品を撮影した。指示は「ここにあるおもちゃを使って、この箱の中に何か作って下さい」と統一した。各対象者が砂色の異なる箱庭で1回ずつ計2回制作し、1回目と2回目の間隔は1週間程度に設定した。その際、砂色と回数、男

女の割合については偏りが生じないように配慮した。対象者は大学生55名（男子:22名, 女子33名, 18歳～24歳, 平均20.41歳, 標準偏差1.27）である。制作後, 対象者に対してSD法を研究者単独で試行した。使用したSD法は, 岡田（1969）で作成された5件法の質問紙（20項目）に, より詳細な検討を行うために秋山（1982）および岡田（1984）を参考に項目を追加し用いた（資料1）。記録は制作時間や使用玩具数および種類, 砂への接触頻度, 制作中の態度などについて研究者が玩具に対して左斜め後ろ側に位置した状態で行った。制作終了後, 対象者に対して作品のテーマや説明を求め, 必要な玩具や感想などに関して質問をするとともに作品をカメラで撮影した。倫理的配慮として得られたデータは全て統計的に処理されるため個人のプライバシーは保護されることを文書と口頭で説明し, 説明に同意される方のみ研究に参加するという形式にて同意を得た。

2 分析方法

所要時間, 使用玩具数および種類など基礎的データを算出した上で, 使用玩具数の性差に関しては χ^2 検定を行った。砂色の差異および回数の違い, 性差に関して対象者全体および男子・女子ごとのSD法における形容詞対の評定平均を用いてt検定を行った。手続きとして対象者全体の分析を行った上で性差に関する分析を実施した。

III 結果

1 基礎的データ

各対象者が箱庭制作に要した時間, 使用玩具数および使用玩具の種類に関する平均値および性差は, Table.1に示した。種類別玩具の使用人数および性差についてはTable.2に示した。

(1) 時間, 使用玩具数および使用玩具種類の平均値および性差

Table.1 時間, 使用玩具数および使用玩具種類の平均値および性差

	所要時間 (分)	使用玩具数	種類
	平均 (標準偏差)	平均 (標準偏差)	平均 (標準偏差)
全体	15.1 (7.84)	43.8 (17.45)	4.58 (2.02)
男子	13.9 (6.03)	42.5 (16.00)	4.75 (2.06)
女子	15.9 (8.76)	44.7 (18.24)	4.47 (1.96)

(n = 110)

概ね先行研究の結果と一致する結果であったが, 所要時間に関しては先行研究における平均所要時間が12分から23分程度であるのに比して若干短い結果が得られた。木村（1993）によれば「箱庭制作のための所要時間の長短は, 箱庭作りにコミットする度合いと, 周囲に対する防衛的態度, 興味の多少などによって左右される」と考えられており, 本研究における対象者は各自が2回箱庭を制作することを予め説明されているため箱庭制作への関与の割合が低下した可能性がある。これ

らの項目について有意差は認められず、所要時間などに関して性差はないと考えられる。

(2) 玩具の使用人数および性差

Table.2 玩具の使用人数および性差

	人数	植物を使用	動物を使用	人間を使用	乗り物を使用	建物を使用	その他を使用
全体	110	100	88	86	52	78	100
() 内は%	人中	(90.9)	(80.0)	(78.2)	(47.3)	(70.9)	(90.9)
男子	44	39	37	38	25	32	38
() 内は%	人中	(88.6)	(84.0)	(86.4)	(56.8)	(72.7)	(86.4)
女子	66	59	51	48	27	46	62
() 内は%	人中	(89.4)	(77.3)	(72.7)	(40.9)	(69.7)	(93.9)
χ^2		4.40*					4.40*

*p<.05 (n=110)

人間を使用する割合が13.2%であり、建物を使用する割合が30.2%である先行研究との比較においては、人間および建物のいずれについても使用割合が高い結果が得られた。先行研究の対象者が高校生であったことに比して、本研究における対象者の年齢層を考慮すると、対人関係への興味関心の高さや対社会的意識の高まりによる可能性が示唆された。

植物の使用、その他の使用いずれにおいても女子の使用人数が多い結果が得られた ($\chi^2(1) = 10.00, p < .01, \chi^2(1) = 10.00, p < .01$)。その他の中でビー玉の使用が多く見られ、女子が興味関心を示しやすいアイテムの存在が影響を与えた可能性がある。

2 全体的な特徴について

(1) 砂色の違いに関して

白砂と茶砂の作品に対するSD法の結果について Table.3に示す。

Table.3 砂色の違い

		白砂		茶砂		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
1	まとまった	2.42	0.89	2.18	0.90	
2	かたい	3.53	1.07	3.60	0.49	
3	貧弱な	3.38	1.28	3.56	0.78	
4	女性的	2.65	1.04	2.64	0.84	
5	深い	3.18	0.93	2.85	0.65	
6	こせこせした	3.44	1.12	3.71	0.71	
7	動的	3.07	0.92	2.84	0.46	
8	未熟な	2.80	1.03	3.20	0.73	-2.38*
9	開放的	2.58	0.56	2.42	0.49	
10	小さい	3.18	0.85	3.27	0.45	
11	安定した	2.29	0.79	2.42	0.49	
12	暗い	4.00	0.84	3.73	0.70	
13	弱い	3.18	0.96	3.31	0.46	
14	充実した	2.44	0.81	2.24	0.60	
15	不調和な	3.65	1.12	3.76	0.47	

16	積極的	2.82	1.04	2.64	0.61	
17	アブノーマル	3.64	1.31	3.69	0.46	
18	にぎやか	2.62	1.03	2.53	0.83	
19	緊張した	3.58	1.07	3.82	0.64	
20	愉快的	2.33	0.77	2.38	0.56	
21	冷たい	3.87	0.99	3.75	0.74	
22	優しい	2.22	0.83	2.29	1.00	
23	受容的	2.11	0.67	2.44	0.65	
24	つまらない	3.76	0.93	3.87	0.92	
25	ほのぼの	2.09	0.92	2.00	0.95	
26	現実的	3.16	1.05	3.13	0.69	
27	東洋的	3.53	0.86	3.62	0.59	
28	汚い	3.71	0.76	3.71	0.73	
1	楽しかった	1.65	0.51	1.53	0.63	
2	集中できた	1.65	0.81	1.60	0.83	
3	気に入った	2.02	0.73	1.71	0.88	2.01*
4	すっきりした	2.64	1.15	2.07	0.77	3.11**
5	良かった	1.67	0.49	1.55	0.57	
6	達成感	2.18	0.69	1.89	0.91	

*p<0.5.**p<0.1

結果、対象者全体では白砂作品の方が茶砂作品より未熟なイメージがあり ($t=-2.38, p<.05$)、白砂作品の方が作品を気に入る程度が低く ($t=2.01, p<.05$)、すっきりした感じも持てない ($t=3.11, p<.01$) という否定的な感想が示された。白砂作品と茶砂作品が制作者に与えるイメージには差異があり、砂色が異なることで完成する作品に違いが表れる可能性が示唆された。

(2) 制作回数の違いに関して

1回目と2回目の作品に対するSD法の結果についてTable.4に示す。

Table.4 制作回数の違い

		1回目		2回目		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値
1	まとまった	2.29	1.09	2.31	1.65	
2	かたい	3.45	0.99	3.67	1.35	
3	貧弱な	3.36	0.61	3.58	1.82	
4	女性的	2.67	1.01	2.62	1.68	
5	深い	3.11	0.78	2.93	1.63	
6	こせこせした	3.62	1.20	3.53	1.36	
7	動的	3.18	0.72	2.73	1.57	
8	未熟な	2.87	1.00	3.13	0.98	
9	開放的	2.47	0.50	2.53	1.57	
10	小さい	3.24	0.66	3.22	1.47	
11	安定した	2.35	0.75	2.35	1.62	
12	暗い	3.78	0.71	3.95	1.43	
13	弱い	3.16	0.46	3.33	1.59	
14	充実した	2.36	0.69	2.31	1.69	
15	不調和な	3.71	0.65	3.71	1.56	
16	積極的	2.93	0.63	2.53	0.86	2.78*
17	アブノーマル	3.73	0.84	3.60	1.63	
18	にぎやか	2.76	0.71	2.38	1.83	
19	緊張した	3.58	0.89	3.82	1.43	
20	愉快的	2.40	0.59	2.31	1.69	
21	冷たい	3.80	0.92	3.82	1.42	
22	優しい	2.31	0.91	2.20	1.79	
23	受容的	2.22	0.49	2.33	1.73	
24	つまらない	3.71	0.85	3.93	1.48	
25	ほのぼの	1.98	0.88	2.11	1.84	

26	現実的	3.02	0.59	3.27	1.69	
27	東洋的	3.67	0.69	3.47	1.46	
28	汚い	3.76	0.63	3.65	1.41	
1	楽しかった	1.64	0.52	1.55	1.80	
2	集中できた	1.69	0.81	1.56	1.87	
3	気に入った	1.89	0.76	1.84	0.80	
4	すっきりした	2.58	0.83	2.13	1.14	2.39*
5	良かった	1.65	0.56	1.56	1.75	
6	達成感	2.18	0.74	1.89	1.82	

*p<.05

1回目の作品の方が2回目の作品よりも消極的な印象を与えるという結果となった($t=2.78, p<.05$)。1回目の作品の方が2回目よりもすっきりした感じがあまりないという結果が得られた($t=2.39, p<.05$)。

3 性差に関する分析

(1) 砂色の違いに関して

1) 白砂作品に関して

男子と女子の白砂作品に対するSD法の結果についてTable.5に示す。

Table.5 白砂作品

		男白砂		女白砂		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値
1	まとまった	2.50	0.72	2.36	0.98	
2	かたい	3.18	0.96	3.76	1.09	-2.01*
3	貧弱な	3.32	1.06	3.42	1.39	
4	女性的	3.27	1.24	2.24	0.61	4.09**
5	深い	2.95	0.85	3.33	0.94	
6	こせこせした	3.27	1.05	3.55	1.13	
7	動的	2.86	0.97	3.21	0.84	
8	未熟な	3.00	1.23	2.67	1.01	
9	開放的	2.77	0.42	2.45	0.61	
10	小さい	3.41	0.98	3.03	0.72	
11	安定した	2.45	0.52	2.18	0.90	
12	暗い	3.48	0.66	4.18	0.83	
13	弱い	3.32	0.70	3.09	1.08	
14	充実した	2.38	0.57	2.27	0.93	
15	不調和な	3.64	0.98	3.67	1.20	
16	積極的	2.82	0.78	2.82	1.17	
17	アブノーマル	3.41	0.72	3.79	1.57	
18	にぎやか	2.64	0.83	2.61	1.13	
19	緊張した	3.36	0.90	3.73	1.12	
20	愉快的	2.41	0.49	2.27	0.86	
21	冷たい	3.50	0.66	4.12	1.09	
22	優しい	2.73	0.46	1.88	0.86	4.25**
23	受容的	2.41	0.49	1.91	0.71	
24	つまらない	3.55	0.49	3.91	1.04	
25	ほのほの	2.55	0.51	1.79	1.02	3.21*
26	現実的	3.45	1.20	2.97	0.94	
27	東洋的	3.32	0.97	3.67	0.72	
28	汚い	3.50	0.72	3.85	0.74	
1	楽しかった	1.73	0.54	1.61	0.49	
2	集中できた	1.50	0.66	1.76	0.87	
3	気に入った	1.95	0.77	2.06	0.53	

4	すっきりした	2.86	1.06	2.48	0.97	
5	良かった	1.91	0.45	1.52	0.50	
6	達成感	2.14	0.69	2.21	0.69	

*p<.05,**p<.01

男子の方が女子よりも白砂作品に対して、硬く (t=-2.01,p<.05) 男性的 (t=4.09,p<.01) で、厳しく (t=4.25,p<.01) 殺伐とした (t=3.21,p<.05) 印象を持っていることが示された。男子の白砂作品のテーマとして「闘い」「反抗, 抵抗」などが多く見られた。女子では最も多いテーマが「海」であったが、男子においては攻撃性が表現された可能性がある。

2) 茶砂作品に関して

男子と女子の茶砂作品に対するSD法の結果についてTable.6に示す。

Table.6 茶砂作品

		男茶砂		女茶砂		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
1	まとまった	2.45	0.51	2.00	0.83	2.30*
2	かたい	3.00	0.21	4.00	0.17	-19.36***
3	貧弱な	3.45	0.89	3.64	0.69	
4	女性的	3.45	0.51	2.09	0.52	9.58***
5	深い	2.67	0.71	2.79	0.59	
6	こせこせした	2.95	0.21	4.21	0.42	-13.08***
7	動的	2.68	0.47	2.94	0.42	
8	未熟な	3.09	1.12	3.09	0.56	
9	開放的	2.91	0.29	2.09	0.29	10.15*
10	小さい	3.14	0.34	3.36	0.48	
11	安定した	2.68	0.47	2.21	0.41	
12	暗い	3.00	0.21	4.21	0.42	-13.65**
13	弱い	3.36	0.48	3.27	0.45	
14	充実した	2.59	0.50	2.00	0.55	6.78*
15	不調和な	3.36	0.49	4.03	0.17	-7.16*
16	積極的	2.68	0.47	2.61	0.69	
17	アブノーマル	3.36	0.48	3.91	0.29	
18	にぎやか	2.82	0.39	2.33	0.97	
19	緊張した	3.23	0.43	4.21	0.42	-8.51**
20	愉快的	2.90	0.29	1.85	0.36	11.40***
21	冷たい	2.95	0.21	4.27	0.45	-12.73***
22	優しい	3.05	0.65	1.79	0.89	5.67***
23	受容的	3.00	0.60	1.88	0.33	15.82***
24	つまらない	3.23	1.03	4.30	0.45	-4.92**
25	ほのほの	2.68	0.57	1.55	0.91	5.24**
26	現実的	2.55	0.51	3.52	0.51	-6.93**
27	東洋的	3.50	0.50	3.70	0.63	
28	汚い	3.36	1.05	3.94	0.24	-3.05*
1	楽しかった	1.68	0.47	1.42	0.70	
2	集中できた	1.50	0.50	1.67	0.98	
3	気に入った	1.91	0.68	1.58	0.97	2.27*
4	すっきりした	2.36	0.85	1.88	0.33	2.97*
5	良かった	1.73	0.62	1.42	0.49	
6	達成感	2.14	0.92	1.73	0.86	

*p<.05,**p<.01,***p<.001

女子よりも男子の方が、硬く (t=-19.36,p<.001) 男性的で (t=9.58,p<.001) こせこせとし

($t=-13.08, p<.001$), 緊張感 ($t=-8.51, p<.01$) と不愉快さ ($t=11.40, p<.001$) に加えて拒否的な印象 ($t=2.27, p<.05$) を茶砂作品に対して持っていることが示された。男子の方が自身で制作した茶砂作品に対する全体的な満足感が低く、否定的な印象を持っている可能性が示唆された。多くの項目で有意差が認められており、茶砂を用いた作品に対しては性差が顕著に見られる可能性も考えられる。

(2) 制作回数の違いに関して

1) 1回目作品に関して

男子と女子の1回目作品に対するSD法の結果についてTable.7に示す。

Table.7 1回目作品

		男1回目		女1回目		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
1	まとまった	2.41	0.94	2.21	1.17	
2	かたい	2.91	0.75	3.82	0.98	-3.68**
3	貧弱な	3.41	0.65	3.33	0.59	
4	女性的	3.41	1.21	2.18	0.39	5.39***
5	深い	2.86	0.69	3.27	0.79	
6	こせこせした	3.14	1.04	3.94	1.22	-2.53*
7	動的	3.14	0.81	3.21	0.64	
8	未熟な	2.68	1.29	2.81	1.38	
9	開放的	2.91	0.29	2.18	0.39	7.42*
10	小さい	3.45	0.50	3.09	0.71	
11	安定した	2.73	0.46	2.09	0.95	2.93*
12	暗い	3.18	0.40	4.18	0.88	-4.98**
13	弱い	3.18	0.39	3.15	0.50	
14	充実した	2.57	0.50	2.03	0.72	
15	不調和な	3.36	0.85	3.94	0.35	-3.50*
16	積極的	3.05	0.64	2.85	0.66	
17	アブノーマル	3.50	0.50	3.88	0.98	
18	にぎやか	3.14	0.34	2.52	0.78	
19	緊張した	3.27	0.45	3.79	1.04	
20	愉快的	2.68	0.47	2.21	0.59	
21	冷たい	3.27	0.63	4.15	0.94	-3.84**
22	優しい	2.91	0.68	1.91	0.84	4.64**
23	受容的	2.64	0.49	1.94	0.24	6.98*
24	つまらない	3.41	0.58	3.90	0.93	
25	ほのぼの	2.55	0.51	1.61	0.90	4.44**
26	現実的	2.68	0.47	3.24	0.55	
27	東洋的	3.50	0.58	3.79	0.73	
28	汚い	3.50	0.78	3.94	0.42	
1	楽しかった	1.73	0.54	1.58	0.49	
2	集中できた	1.50	0.66	1.82	0.87	
3	気に入った	1.91	0.67	1.88	1.45	
4	すっきりした	2.91	1.04	2.36	1.39	
5	良かった	1.91	0.97	1.48	0.51	2.12*
6	達成感	2.32	0.76	2.09	0.71	

* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

男子1回目群の方が男性的 ($t=5.39, p<.001$) で、暗く ($t=-4.98, p<.01$) 厳しく ($t=4.64, p<.01$) かつ殺伐としたもの ($t=4.44, p<.01$) として作品を捉えていることが明らかとなった。制作に関する感想としても肯定的な回答は得られなかった ($t=2.12, p<.05$)。男子の1回目には箱庭への関心の低さや抵抗感が強く示された可能性が考えられる。

2) 2回目作品に関して

男子と女子の2回目作品に対するSD法の結果についてTable.8に示す。

Table.8 2回目作品

		男2回目		女2回目		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
1	まとまった	2.55	0.58	2.15	0.66	
2	かたい	3.27	0.55	3.94	0.50	-4.67**
3	貧弱な	3.36	1.23	3.73	1.42	
4	女性的	3.32	0.57	2.15	0.71	6.43**
5	深い	2.76	0.90	2.85	0.82	
6	こせこせした	3.01	0.38	3.82	0.39	-7.29*
7	動的	2.41	0.49	2.94	0.69	
8	未熟な	3.41	0.96	2.94	1.03	2.07*
9	開放的	2.77	0.42	2.36	0.59	
10	小さい	3.09	0.90	3.30	0.52	
11	安定した	2.41	0.58	2.30	0.58	
12	暗い	3.29	0.94	4.21	0.42	-5.09*
13	弱い	3.50	0.72	3.21	1.07	
14	充実した	2.41	0.58	2.24	0.82	
15	不調和な	3.64	0.71	3.77	1.18	
16	積極的	2.45	0.50	2.58	1.18	
17	アブノーマル	3.27	0.69	3.82	1.27	
18	にぎやか	2.32	0.63	2.42	1.28	
19	緊張した	3.32	0.48	4.15	0.36	-7.34**
20	愉快的	2.62	0.66	1.91	0.84	3.41*
21	冷たい	3.18	0.50	4.24	0.75	-5.81**
22	優しい	2.86	0.47	1.76	0.90	5.28**
23	受容的	2.76	0.43	1.85	0.76	5.20*
24	つまらない	3.36	1.05	4.30	0.48	-4.65**
25	ほのぼの	2.68	0.57	1.73	1.04	3.93*
26	現実的	3.32	1.29	3.24	0.99	
27	東洋的	3.32	0.92	3.58	0.60	
28	汚い	3.36	0.98	3.85	0.66	
1	楽しかった	1.68	0.47	1.45	0.70	
2	集中できた	1.50	0.50	1.61	0.98	
3	気に入った	1.95	0.77	1.76	0.82	
4	すっきりした	2.32	0.82	2.00	0.92	
5	良かった	1.73	0.45	1.45	0.50	
6	達成感	1.95	0.82	1.85	0.89	

*p<.05,**p<.01

男子2回目群の方が硬く ($t=-4.67, p<.01$) 男性的 ($t=6.43, p<.01$) で、緊張した印象 ($t=-7.34, p<.01$) を受け、つまらないもの ($t=-4.65, p<.01$) というイメージを持っていることが示された。男子の方が作品に対して否定的な印象を持っていると考えられる。女子の方がスムーズに取り組んでいた可能性があることに加えて、男子には箱庭制作への抵抗感などが生じていた可能性が示唆される。

4 事例

各作品に見られる様々な特徴の理解を深めるために具体的な事例を挙げてみていく。

(1) 砂色が異なる作品例

1) 白砂を用いた作品

始めに白砂を用いた事例を紹介する。



Figure.1 白砂を用いた作品

大学4年生 女子 22歳

短い制作時間（7分）であまり迷わずに作り終えた作品である。テーマは漠然と「幸せそうな感じ」と説明した。「天気の良い晴れた日に公園でみんながくつろいでいる」と解説を加え「全然知らない場所」と自ら空想的であることを話した。テーブルを中心に同心円上に人が並び和やかな印象はあるが、所々の空白部分がやや未熟さを感じさせる作品である。

2) 茶砂を用いた作品

次に茶砂を用いた事例を紹介する。



Figure.2 茶砂を用いた作品

大学1年生 男子 19歳

中心を囲む柵が特徴的な作品である。柵の外側には溝を掘っており、中心に立つ男性を「自分」と話す外界に対し拒否的な印象を受ける。加えて、柵自体の硬さや柵の周りのワニやヘビには不愉快さとともに冷たさを感じさせる作品となっている。

(2) 回数の違いによる作品例

1) 1回目の作品

始めに1回目の作品について事例を紹介する。



Figure.3 1回目の作品

大学3年生 男子 21歳

1回目の作品としては典型的な作品と考えられる。中心付近には何も置かず消極的で殺伐とした印象を受ける。対象者自身制作後に「よく分からない」と苦笑交じりに説明した。色彩豊かな草花や乗り物、人間などの玩具が全く存在しないため、冷たさや暗さといった印象を与える作品である。

2) 2回目の作品

次に2回目の作品について事例を紹介する。



Figure.4 2回目の作品

大学3年生 女子 21歳

制作中、常時両手に溢れるほど玩具を持って楽しそうに制作した作品である。緊張感も感じさせずリラックスした様子で取り組み、色鮮やかな花やビー玉を用いたことで暖かさや優しさを感じさせる。所要時間が長く(30分)かつ使用玩具数も多い(93個)箱庭作品であり、積極的に制作していた様子が見えがえる。

IV 考察

1 砂色による作品の差異に関して

砂色による作品の差異について、白砂作品の方が未熟な印象を持つことが明らかとなり、作品に対する満足度も低いことが示された。この結果の背景として、白砂という素材に含まれる特徴が影響を与えた可能性がある。上述のLowenfeld, M. は「白い砂は雪を表現する」と述べ、伊藤（2008）は白という色名から連想される語には「雲」と「雪」が高い割合で認められることを明らかにしているが、岩井（1986）によれば「白はあらゆるイメージを思い浮かべるための源泉」と表現されており、白砂には個人が持つ多種多様なイメージの世界を箱庭の場に映し出しやすくする働きが内包されていると考えられる。Birren（2009）は色彩嗜好として「白という色は、荒涼として情緒感に欠け、草木も生えない不毛な印象の色である」と記述しており、白砂がもたらすイメージの多義性を指摘している。白という色が茶色に比べ制作者に対して様々かつ曖昧なイメージを提供するため、作品の印象が未熟なものと捉えられ、作品に対する満足度が低いという結果を導いた可能性が考えられる。

一方、茶砂作品については成熟した作品である印象を持つとともに、作品に対する満足度も高い結果となった。茶色に関する伊藤（2008）の研究では、茶色からは土が連想されることが明らかとなり、先のLowenfeld, M.（1969）も「茶色は大地を表現するのに適している」と記述している。上述の秋田は「砂との触れ合いは、母性、身体性との自分なりの関わり合い方の模索のように思える」と記載し、母なる大地という言葉からも示唆されるように、茶砂には母性や母子一体性に結び付く働きが含まれている可能性がある。他方で茶色に対する異なるイメージも報告されている。先述のBirrenは「茶色への拒否反応に発見されるのは、焦燥感であり、沈滞感や倦怠感ともなっている」と指摘している。村山（1991）によれば「茶色は抑鬱気分を表すと解釈される」とあり、茶色に対するNegativeなイメージの存在が指摘されている。

砂色から連想されるイメージと現実との関連について、中道（2010）は「砂を生命を育む大地と捉えるのか、不毛な地である砂漠と捉えるのかによって、砂がもたらすイメージは自ずと異なったものになるであろう」と指摘し、千葉（2018）は「箱の中で砂、ミニチュアを用いて箱庭を制作していく過程においては、（中略）主体がイメージと現実を行き来するような体験、あるいは、両方の世界と常に接しているような体験があると考えられることができるだろう」と述べ、箱庭療法において砂あるいは砂の色から刺激を受け個人に喚起されるイメージと現実の関係性について言及している。両者の関係性についてはさらなる研究が求められるだろう。

本研究によって砂色が異なることで制作された箱庭作品に対するイメージに差異が生じることが明らかとなり、臨床場面において箱庭作品を解釈する際には用いられた砂の色について考慮に入れる意味および必要性があることが示唆された。

2 回数による作品の差異に関して

1回目の作品よりも2回目の作品の方が深まりを見せる作品になるとともに、対象者の満足度および作品の成熟度に関しても深化が認められた。この結果は先行研究の結果と概ね一致するものとなった。久米(2011)は「2回目の体験において、より内的な感覚に向き合うようになった作り手が多かった」と記述されており「しだいに、心の動きを感じながら作品の自律性に身を委ねる方向へ意識の向け方が変化していく」と述べている。1回目の方が箱庭制作に対する緊張感や不安感などがあり、退行が促進されることなく制作が終了した可能性がうかがえる。このような対象者の心理状態が1回目の作品への消極性や満足度の低さに影響を与えた可能性がある。回数が増すことで作品に深まりが生じることについては、臨床場面で従前より指摘されていることであり、河合(1969)による「箱庭療法の実験的研究は、1回のみ作品をできるだけ客観化して見ていこうとするため治療にはつながりにくい。これに反して、シリーズとして見ていこうとする態度は、人間を静的に固定して観察するのではなく、むしろ人間が変容し可能性を進展させていく方向にあるということに注目しているのである」という指摘があるが、本研究において心理臨床の実践の中で臨床感覚として言及されていることが確認されたことは意義があると考えられる。

3 性差について

砂色の差異については、男子の方が女子よりも白砂作品に関してより硬く、殺伐としたイメージを持っていることが示された。茶砂作品に対しては緊張感があり、不愉快で冷たく、こせこせしているというイメージがあることが明らかとなった。加えて、男子の方が白砂、茶砂いずれにおいても自分の作品に対して満足度が低く、好意的な印象を持っていないことが示された。回数の差異については、1回目、2回目ともに男子の方が冷たく、厳しいイメージを持っていることが示唆された。作品が「つまらない」というイメージに関しても差が認められており、男子の作品に対する否定的感情の強さがうかがえた。

これらの点に関連して、制作終了後に尋ねた作品の「テーマ」の観点から考察を加えると、男子は「闘い」や「反抗、抵抗」、「銃で狙われる人」といった攻撃的内容が多く見られた。彼らによる自発的感想としても「失敗したと思う。こういう国にはならない方が良い」、「まやかしの世界」など作品に対する否定的発言が認められた。一方女子においては「海」が最も多く、次いで「公園」や「砂浜」などが挙げられ、感想としても「楽しかった」、「またやりたい」といった肯定的内容が多く見られた。河合(2017)によって「実は、大人というのは砂に触ることはほとんどない」と指摘されているように、今回の対象者の多くは日常的に砂に触ることは少なかったと考えられる。砂が退行を促す働きがあることは先に述べた通りだが、今回の対象者の中でも特に男子学生にとっては箱庭を制作するという過程の中で砂に触れることに対する抵抗感が強かった可能性が考えられる。その点、女子学生は抵抗感が低く箱庭制作に関与していた可能性がある。この点に関しては研究者の性別も影響を与えていたと考えられる。

4 今後の課題

第一に、箱庭療法の砂として他に数種類の色が存在しており、比較検討を行うことで示唆に富む結果を得ることができる可能性がある。第二に、岡田（2002）の中で紹介されている河合隼雄の「サイコセラピーに触覚というのは普通入らない」との言葉や、久米（2018）による「砂は『ふれる』体験を賦活する」との記載を踏まえると、手触り感や砂の乾湿などを含む砂の質に関する詳細な検討を行うことが期待される。最後に、箱庭療法が元来心理臨床における治療技法の1つとして発展してきた経緯を考慮すると縦断的な臨床研究が必要である。箱庭制作を行う患者/クライアントが抱くイメージと現実との関連性に関する臨床研究を通して得られる知見には大きな意義があると考えられる。

V 総合考察

箱庭療法における重要なアイテムの一つである砂の色が異なることで、完成した作品に対するイメージに違いが生じることが明らかとなった。白砂を用いた作品は茶砂による作品に比して未熟なイメージを与え、作品に対する満足度も低くなることが示された。心理臨床家が実際の臨床場面において患者/クライアントが制作する箱庭作品を解釈する際には、使用される砂の色について考慮に入れる必要性が示唆された。箱庭制作を行う回数の違いによる作品の差異については、回数が増すことで制作者の満足度が増加することが示され、従来心理臨床の実践の場で指摘されていることが確認された。性差については、男子の方が女子よりも砂色の差異や回数の違いに関わらず作品に対する満足度が低く、否定的感想を持つことが示された。箱庭制作を行う年齢による影響や箱庭制作を観察する者の性別による影響も考慮に入れる必要があるが、箱庭制作の性差に関して一つの特徴が示されたことは意義深いと考えられる。

文 献

- 秋田巖:砂だけの造形神経性食思不振症のケースより.箱庭療法学研究,4(2),49-59,1991.
- 秋山幹男:一女子学生の連続箱庭作品をもちいた投影法的研究.一同一年令女子青年達の反応について.広島文教女子大学紀要,17,55-74,1982.
- Birren,F.:Color & Human Response, Aspects of light and color bearing on the reactions of living things and the welfare of human beings. John Wiley & Sons Inc. New York, 1978.(佐藤邦夫訳:ビレン色彩心理学と色彩療法.青娥書房,215-217,2009.)
- Bowyer,R.:The importance of sand in the World Technique :An experiment. The British Journal of Educational Psychology, 29(2), 162-164, 1959.
- 千葉友里香:箱庭療法と心の変容—イメージと関係性の視点から—.創元社,2018.
- Kalff, D.M.:The significance of the hare in Reynard the Fox. Journal of Analytical Psychology, 2, 183-193, 1957.
- Kalff, D.M.:Sandspiel Seine therapeutische Wirkung auf Psyche, Rascher Verlag, Zurich und Stuttgart 1966a. (河合隼雄監修・大原貢・山中康裕共訳:カルフ箱庭療法.誠信書房,1972.)
- Kalff, D.M.:The archetype as a healing factor. Psychologia, 9(3), 177-184, 1966b.
- 不破早央里:箱庭療法の治癒的要因の概観と展望—「力動」と「プロセス」の観点から—.京都大学大学院教育学研究

- 科紀要, 64, 331-343, 2018.
- 橋本やよい:箱庭の物語が「生えられる」ようになるまで—ある思春期心身症少女の箱庭—.箱庭療法学研究, 8(2), 3-14, 1995.
- 平松清志:12回面接においてある女子大学院生が制作した箱庭作品の変化過程.箱庭療法学研究,9(1), 33-42, 1996.
- 石原宏:箱庭療法モノグラフ第2巻 箱庭療法の治療的仕掛け—制作者の主観的体験から探る—.創元社, 2015.
- 石田正子・島田章:箱庭療法における遊びについての考察.箱庭療法学研究, 8(1), 15-24, 1995.
- 伊藤久美子:色彩好悪と色彩象徴の経年比較.デザイン学研究, 55(4), 31-38, 2008.
- 岩井寛:色と形の深層心理.NHKブックス, 1986.
- 城倉登代子:箱庭療法における砂.静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇), 60, 113-120, 2010.
- 河合隼雄:箱庭療法入門.誠信書房, 1969.
- 河合隼雄・中村雄二郎:新・新装版 トボスの知—箱庭療法の世界—.株式会社CCCメディアハウス, 2017.
- 川戸圓:分析場面における箱庭制作の意味.氏原寛・東山鉦久編, 発達, 71(18), 26-33, 1997.
- 木村晴子:箱庭のみかたに関する実験的研究(1)セラピストのグルーピングの試み.日本心理学会第37回大会発表論文集, 46-47, 1973.
- 木村晴子:箱庭療法—基礎的研究と実践—.創元社, 1985.
- 木村晴子:箱庭療法.氏原寛・東山鉦久編, 別冊発達16・カウンセリングの理論と技法, 132-140, 1993.
- 久米禎子:2回の連続した箱庭制作における作り手の主観的体験の検討—印象評定とインタビュー分析を用いて—.鳴門教育大学研究紀要, 26, 213-220, 2011.
- 久米禎子:プレイセラピーにおける砂の意味.鳴門教育大学研究紀要, 28, 321-327, 2013.
- 久米禎子:「おもちゃ」という視点からみた箱庭と「遊び」.鳴門教育大学研究紀要, 33, 77-91, 2018.
- Lowenfeld.M:A new approach to the problem of psychoneurosis in childhood. British Journal of Medical Psychology, 11, 194-227, 1931.
- Lowenfeld.M:The world pictures of children. British Journal of Medical Psychology, 18, 65-101,1939.
- Lowenfeld.M:The nature and use of the Lowenfeld World Technique in work with children and adults. The Journal of Psychology, 30, 325-331, 1950.
- Lowenfeld.M:The Lowenfeld Mosaic Test. The Journal of Projective Technique, 16, 200-202, 1952.
- Lowenfeld.M:The Lowenfeld Mosaic Test. The Millbrook Press Ltd, Southampton, 1954.
- Lowenfeld.M:Play in Childhood. Victor Gollancz LTD, 46-49, 1969.
- Lowenfeld.M:The World Technique. George Allen & Unwin Ltd, Boston Sydney,1979.
- 前川美行:ある身体疾患の女性との心理療法.心理臨床学研究, 16(2), 174-185, 1998.
- 松田隆夫, 高橋晋也, 宮田久美子, 松田博子:色と色彩の心理学.培風館, 200, 2014.
- 森敏昭・吉田寿夫編:心理学のためのデータ解析テクニカルブック.北大路書房, 1990.
- 村山久美子:絵画療法における色彩の解釈.日本色彩学会編, 色彩科学事典.朝倉書店, 58, 1991.
- 中道泰子:箱庭療法の心層—内的交流に迫る—.創元社, 2010.
- 野副紫をん:箱庭療法過程の見方に関する研究.箱庭療法学研究, 10(2), 27-37, 1997.
- 岡田康伸:SD.法によるサンドプレイ技法の研究.臨床心理学研究, 8(3), 23-35, 1969.
- 岡田康伸・木村晴子:高校生の「箱庭」に関する実験的研究—制作者のタイプとの関連において—.日本心理学会第39回大会発表論文集, 459, 1975.
- 岡田康伸:箱庭療法に関する基礎的研究—年齢差を中心として—.天理大学学报, 130, 10-27, 1981.
- 岡田康伸:箱庭療法の基礎.誠信書房, 1984.
- 岡田康伸:箱庭療法の展開.誠信書房, 1993.
- 大宮秀淑:箱庭療法の砂に関する基礎的研究—砂色を中心にして—.福島大学大学院教育学研究科修士論文, 1999.
- 小野国子:中学生の箱庭表現に関する実験的研究.日本教育心理学会第25回大会発表論文集, 824-825, 1983.
- Ryce-Menuhin,J:Jungian Sandplay-The Wonderful Therapy-(1992).(山中康裕監訳:箱庭療法—イギリス・ユング派の事例と解釈, 金剛出版, 2003.)
- 佐藤仁美:“私を求めて”18歳女性のコラージュ・箱庭療法過程.箱庭療法学研究, 10(2), 38-53, 1997.
- 塩田泰子:箱庭療法における砂と水による表現に見られる特徴に関する研究.箱庭療法学研究,7(1)24-35, 1994.

- 高野祥子: 壮絶な破壊の続いた幼児期被虐待児の箱庭療法. 岡田康伸編, 現代のエスプリ別冊 箱庭療法シリーズ1 箱庭療法の現代的意義. 至文堂, 143-156, 2002.
- 高野祥子: 見られる不安・見る罪悪感にさいなまれる青年の内的体験. 日本箱庭療法学会編集委員会編・箱庭療法学研究第21巻特別号 河合隼雄と箱庭療法. 創元社, 2009.
- 田熊友紀子: 遊戯療法における砂-「器」としての箱庭と治療者-. 箱庭療法学研究, 10(1), 4-14, 1997.
- 丹治光浩: 合同箱庭療法の意義. 心理臨床学研究, 6(1), 31-41, 1988.
- 東城久夫: 事例「尿意」を訴え, 教室に入れなくなってしまった小学校5年生少女の箱庭療法. 小川捷之・横山博編, 心理臨床の実際6・心理臨床の治療関係. 金子書房, 1998.
- 梅村高太郎: アトピー性皮膚炎の心理療法における主体の確立-かゆみの増悪を機に来談した高校生男子とのイメージを用いた心理療法-. 箱庭療法学研究, 24(3), 3-17, 2012.
- 山口登代子: 箱庭療法における砂と母性. 性格心理学研究, 5(1), 58-60, 1997.
- 山口登代子: 箱庭療法において砂を用いることの意味. 静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇), 55, 227-234, 2005.
- 山崎恵莉菜・岡本祐子: 箱庭の砂の色が箱庭制作に与える影響について. 広島大学大学院教育研究センター-紀要, 14, 48-57, 2015.

資料1

1. 以下には、左右に対になった形容詞があります。今回あなたが作った箱庭作品の印象として、よりあてはまると思われる方に○をひとつ付けて下さい。あまり深く考えずに、思った通りお答え下さい。

	非 常 に	や や	ど ち ら な で い も	や や	非 常 に	
1. まとまった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	雑然とした
2. かたい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	柔らかい
3. 貧弱な	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	豊かな
4. 女性的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	男性的
5. 深い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	浅い
6. こせこせした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	のびのびした
7. 動的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	静的
8. 未熟な	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	成熟した
9. 開放的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	閉鎖的
10. 小さい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	大きい
11. 安定した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	不安定な
12. 暗い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	明るい
13. 弱い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	強い
14. 充実した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	空虚な
15. 不調和な	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	調和した
16. 積極的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	消極的
17. アブノーマルな	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ノーマルな
18. にぎやかな	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	さびしい
19. 緊張した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	くつろいだ
20. 愉快的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	不愉快的
21. 冷たい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	暖かい
22. 優しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	厳しい
23. 受容的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	拒否的
24. つまらない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	楽しい
25. ほのぼのした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	殺伐とした
26. 現実的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	空想的
27. 東洋的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	西洋的
28. 汚い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	美しい

2. 以下の質問項目は、あなたに今回作って頂いた箱庭作品の感想などをお聞きする
 ものです。あてはまるところに○を付けて下さい。
 あまり深く考えずに、思った通りお答え下さい。

	言ど	ど	うど	
	うち	言ち	とら	
	とら	えら	いか	い
は	はか	なと	いと	い
い	いと	いも	え言	え

- | | | | | |
|---------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 作っている時楽しかったですか？ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 2. 集中して作れましたか？ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3. 作品を気に入っていますか？ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 4. 何かすっきりした感じがしますか？ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5. 作ってみて良かったですか？ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 6. 達成感がありますか？ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

Fundamental study on sand color in Sandplay Therapy

Hidetoshi OMIYA

Abstract

The purpose is to investigate whether differences are observed in Sandplay works due to different color of sand used in Sandplay therapy. The subjects are 55 university students (22 males, 33 females). The subjects made a Sandplay once for each sand color using two kinds of sand (white sand / brown sand). After completion of production, researcher asked the students the impression of the work using the questionnaire. As a result, it was revealed that the work by white sand gave a premature impression and the satisfaction with the work was low. The effect of stimulating various and ambiguous images possessed by the material called white sand was recognized. The gender gap was recognized in the image content, and it was shown that the male students had a negative image. On the other hand, with respect to brown sand, the satisfaction of the work was high, gender gap was recognized, and the role of land by brown sand and the connection with the motherhood were suggested. Regarding the number of works, subjects felt deeply about the maturity of the second work rather than the first work. The future task is to compare other sand colors.

Keywords : Sandplay therapy, sand color, number of works, gender difference

(おおみや ひでとし 札幌学院大学心理学部 臨床心理学科)